

[目 次]

2000・12

ページ

EUREKA 〈研究紹介〉	キューサー吸収線で探る宇宙の歴史	三澤透, 家正則	712
天球儀 〈読物〉	星食から生まれた GHS 時計	早水勉 下代博之 相馬充	720
	「今世紀の天文学を振り返って」	藤田良雄 斉藤国治 川口市郎 古在由秀 小暮智一	728
雑報	日本天文学会 早川幸男基金による 渡航報告書		741
シリーズ	《海外研究室事情 (12)》 Institute of Astronomy, University of Cambridge ケンブリッジ大学天文学研究所	関井隆	742
ATAKAMA たより	講演会「アンデス巨大電波望遠鏡で探る宇宙の始まり」	宮脇亮介	744
雑報	天文教育フォーラム 「新世紀のプラネタリウム利用を提案しよう」		746
	1999 年博士・修士論文タイトル一覧 その2		748
年会	日本天文学会 2001 年春季年会のお知らせ		751
月報だより			757

[表紙説明]

キューサーのスペクトル上に見られる重元素ガスによる吸収線（金属吸収線）は、銀河ハローに存在するガス雲によってもたらされると考えられている。そのため、極端な吸収線系のクラスタリングは、銀河の集まり、すなわち銀河団の存在をほのめかすものである。

キューサー SGP2050-359 のスペクトル（右下・下段）に見られるような吸収線群を手掛かりに、Abell1689（左上、すばる観測装置 FOCAS 撮影）のような銀河団を宇宙の遠方において見つけ出すことが期待されている。

(EUREKA 参照)

(表紙デザイン：三宅洋子)